

# ネットリスクに対応を

## コンプライアンス 九州電力が講演会 推進テーマに

九州電力は29日、福岡市中央区の電気ビル本館でコンプライアンスに関する講演会を開催した。眞正義会長、瓜生道明社長をはじめ、同社経営幹部、グループ会社の幹部、コンプライアンス推進責任者ら約160人が出席し、ネット社会における企業のリスク管理や対応策などについて熱心に耳を傾けた。

毎年1月を「コンプライアンス推進月間」と位置づけ、九州電力グループ全体で研修会などを通じて意識の徹底を図っている。講演会では関西大学社会安全学部・大学院社会安全研究科の高野一彦教授が「インターネット社会における企業のコンプライアンス」をテーマに、具体的事例を交えながらコーポレートガバナンスと内部統制システムの確立の重要性を説いた。

高野教授は、国内の情報法整備が諸外国より遅れていることを認識した上で企業のリスクマネジメントに取り組む必要性

を強調。さらにソーシャルメディアの普及により個人情報が一瞬にして全世界に伝わる時代に入ったとし、公私の区別をつけ、慎重な投稿を行うなどの基本スキルを社員研修を通じて習得することを求めた。そして、九州電力グループが社会・産業をリードする立場にあるとし、「社会の変化をウォッチし、世の中より早めにコンプライアンス体制を整えることが重要。社会の期待(立場)に見合った経営判断、業務遂行判断を行うための企業体質をつくることで継続的に成

長で「と講演を結んだ。出席者から、個人情報の取り扱いや、世界的な情報法制への対応などに

関する質問が出され、長期的な視点からコンプライアンス経営に取り組むことの重要性について理解を深めた。



講演する高野教授。情報に関する内部統制システムの重要性を強調した